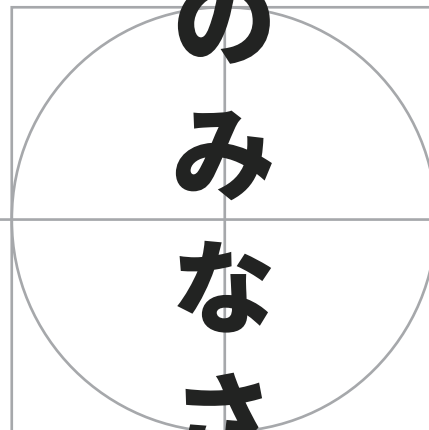


現場のみなさまへ





ーその余白が、現場を変えるー
現場のみなさまへ





私の父親は電気工事士です。

毎日作業着を来て現場に向かう父親を見て育ったこともあり、現場のみなさまとお会いすると不思議な親近感が湧きます。社会人駆け出しの2000年ごろ、広島の山奥で機器生産現場の検品判定システムを開発していたことがありますが、当時の現場の社長から「納得して手が止まるまでやれ。」と言われ、本当に手が止まるまで磨き続けたら納期を3ヶ月も遅らせてしまい、納品した時怒られるのかなと思ったら、生産現場の方から「これ凄い使いやすいですよ、ありがとう。」という言葉もらったことが私の最初の成功体験ではないかと思います。納得いくまで追求してからプロダクトを提供すると現場の方に喜んでもらえる。この「ありがとう。」が私および私たちの原動力です。

私たちが提供するプロダクトは、お客様にいち早くその存在に気づいていただくために、保全現場の点検省力化や、省エネ貢献などの表現が使われていますが、最も大事にしているのは現場の方が「ラク」になるかどうか。現場がラクになれば、時間と心に余白が生まれ、もっと創造的なテーマに注力できるようになります。2025年、「その余白が、現場を変える」というスローガンを企画しました。

このようなスローガンに共感する専門性の高いメンバーが続々と集結しています。また、私たちのプロダクトを利用いただく現場のみなさまもチームの一員だと思っています。チーム一丸となって、現場の課題を解決し、世界中で余白が増えることに少しでも貢献したい、と考えています。

代表取締役社長 大西敬吾



創業と社名の由来

—テクノロジーで、世界の現場を一步前に—





2017年7月、LiLz(リルズ)は当時私が勤めていた沖縄ITベンチャーのAIとIoTを専門とした新規事業部門から独立して4名でスタートしました。

社名のLiLzは、”Lifelong Innovation Laboratory, a to z”という意味です。この名前は「課題解決ができる完成度の高いプロダクト(a to z)を、生涯に渡り提供し、イノベーションを起こしつづける」という想いが込められています。

私は組み込みソフトウェアエンジニア出身で製造業の工場向けやコンシューマー向けの商品開発に長く携わっていました。大企業でこのような商品を開発する場合、ハードウェアとソフトウェアが異なる部門になっていることが良くありました。1つの商品を開発するのに、部門間で連携が取れず、インターフェース仕様で会話し、結果としてユーザー体験が良くない、などの光景をこの目で見えてきて、強い違和感を持ったことがあります。

このような経験から、ハードウェアとソフトウェアの垣根を持たず、もっとフラットに議論できるチームを作り、顧客の課題を解決できる完成度の高いプロダクトを提供しようという想いが社名に反映されています。

とはいえ、創業期はその想いとはかなり距離のあるスタートでした。受託開発等で事業基盤を固めつつ、プロダクトの種となる新規技術に取り組む日々。会社経営も初めてで、手探りのなか資金繰りに奔走する日々でした。どんな時でも、R&Dの手を止めない、という日常を創業から変わらず、今も続けています。





2018年初旬、大企業主催のスタートアップの支援プログラムに参加。この時、現場の方から「目視の点検を何とかしたい。」という声に遭遇、その打ち合わせの帰り道、「あの課題は筋が良い。」という研究者大塚のコメントをきっかけに、日常の目視点検をラクにする「LiLz Gauge（リルズゲージ）」の開発がスタート。当時私は、課題を深掘りするためにユーザーインタビューや類似サービス調査などを経て、試作開発を開始します。

6コマ漫画による構想、電池駆動のカメラ試作、アルゴリズムの検証、クラウド構築など実施していく中で、現場の課題が解決できると確信。

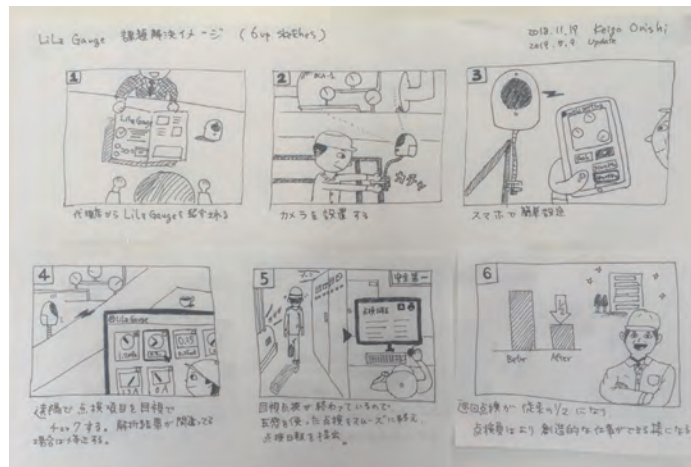
ところが、カメラの本格開発を前に、チーム全員がカメラ開発に大反対。「絶対世の中に同じようなカメラがある。」「AIが強いチームなのになぜハードウェアの量産に踏み込むのか？リスクありすぎ。」などのコメントが飛び交い、誰に話しても反対。この件は、私の創業者としての信念を再確認するとても良い機会になりました。課題を解決するには、ハードとソフトの垣根は作りたくない、必要ならハードも作る。それができることを証明したい。このような信念のもと、一眼レフ・スマホ・試作カメラなどで計器の写真を夜中に毎晩撮影、テストも自ら実行するなどして商品仕様を固め、ファクトや実物を見せながら周囲を巻き込み、カメラの量産にこぎつけました。「あの時反対したのは間違っていた。やってよかった。」と今では笑い話になっています。

約2年の時を経て、LiLz Gauge（リルズゲージ）を2020年6月無事リリース。LiLz（リルズ）は、「テクノロジーで、世界の現場を一步前に」というビジョンを掲げていますが、その第一歩を踏み出すことができました。



LiLz Gauge開発秘話

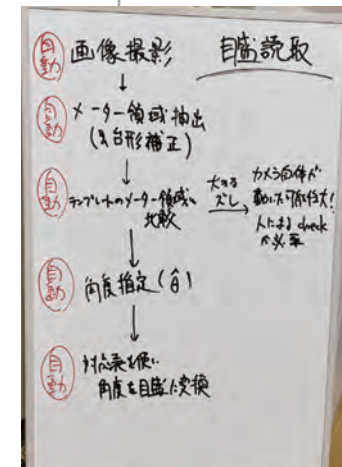
AIとIoTの技術融合で、現場の仕事をラクにする



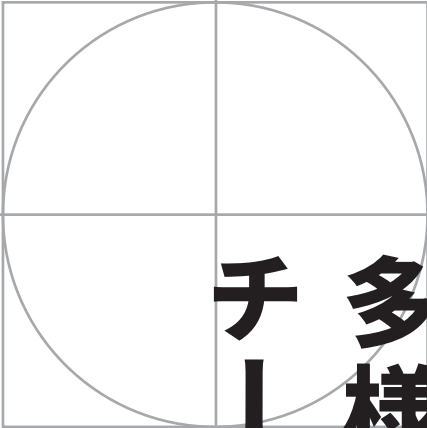
6コマ漫画



カメラの原理試作



アルゴリズム検証
(初期は非常にシンプルな内容からスタート)



— 3つのバリュー —

多様で専門性の高い チーム作り

1. 自律的なプロフェッショナル

私たちは、個々のスタイルを尊重しながらもアウトプットにこだわるのが大事だと考えています。個人それぞれが持つ「プレースタイル」を築き、磨き続けながら、フィードバックをうまく活用して、アウトプットの品質向上にこだわります。また、質の高い仕事には好奇心と余白が欠かせません。散歩や一息つくことで思考が整理され、新しいアイデアが生まれることもあります。このような余白を意識し、プロとしての成長を追求します。

2. 互いを尊重したコミュニケーション

私たちは、互いを尊重したコミュニケーションには、正直さ、失敗を歓迎する姿勢、そして異なる意見の尊重が重要であると考えています。正直であることで信頼関係が築かれ、失敗や間違いを受け入れることで建設的な環境が保たれます。また、異なる意見を尊重することで、多様な視点から質の高いアウトプットが生まれ、チーム全体の成長につながります。これらが積み重なり、プロフェッショナルな対話が形成されます。

3. 期待を超えるプロダクトとサービス

私たちは、優れたプロダクトとサービスを生み出すには、課題設定、細部へのこだわり、そして期待を超える姿勢が重要だと考えています。「解きたい課題」を明確にし、価値ある解決策を提供することで顧客に受け入れられるプロダクトが生まれます。また、細部に心を込め、妥協せず議論を重ねることで洗練されたユーザー体験が実現します。さらに、「顧客の期待を超えているか」という基準を全員が共有することで、期待を超える成果を生む文化が育まれます。



2021年ごろ、創業からLiLz Gauge (リルズゲージ) のサービス提供開始までの約3年間で、事業をスケールさせるには多様な専門性を持つチームが不可欠、ということを痛感し、事業の成長に伴って仲間集めを始めます。私がラッキーだったのは、共同創業者3名がAIの研究者とエンジニアであったことでした。私とは完全に専門性が違うので、必然的に研究と開発以外の業務は全て私が担当するという明確な役割分担ができていました。お陰で、LiLz Gauge (リルズゲージ) の根幹部分は高い専門性によって支えられており、企画だけでは実現できない性能に到達することができました。このような高い専門性によるチームがもたらす効果を体感する過程で、3つのバリューが生まれ、共感したメンバーが集まってきています。



ビジョン
VISION

テクノロジーで、
世界の現場を一步前に

**私たちは、
世界中のあらゆる産業現場が抱える課題を
テクノロジーの力で解決し、
社会に貢献したいと考えています。**

日々の豊かな生活は、現場で働く人々の支えがあつてこそ。
だからこそ、叡智を結集したテクノロジーを現場へ注ぎ込み、
「支える人」を支えていく。十年先の夢物語ではなく、
いまこの瞬間の現場に寄り添い、
一歩ずつの前進をともに実現していきます。





ミッション

MISSION

AIとIoTの 技術融合で、 現場の仕事を ラクにする

現場の課題解決においては、
AIとIoTが、引き続き重要な技術要素として認識されています。

この2つの技術を「融合」し「現場をラクにする」のが、私たちのMissionです。

AIとIoTは抽象度を上げるとソフトウェアとハードウェアともいえます。

このMissionは「顧客の抱える課題を解決するための最高のユーザ体験を設計するには、
ソフトウェアとハードウェアの境目はない」という私たちの姿勢を表しています。

また、「どんなに素晴らしい技術でも利用者を『ラク』にさせることができなければ
価値を提供したことにならない」という私たちの信念が込められています。



バリュー
VALUE

その余白が、
現場を変える。

現場には、わずかな余白が必要です。

気づくための余白、考えるための余白、

次の一手を選ぶための余白。

LiLz (リルズ) は、AIとIoTの力でその余白を生み出し、
現場の判断と行動の質を高めます。

人が主役の現場を、

もっと動きやすく、もっと賢く。





■ INFORMATION

LiLz 株式会社 リルズカブシキガイシャ



〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古 2-3-7 2F
2F 2-3-7 Ganeko, Ginowan, Okinawa, 901-2214, Japan

WEB SITE

メールでのお問い合わせ

contact@lilz.jp



記載の内容は、作成時点での情報に基づいています。仕様や内容は、予告なく変更される場合があります。掲載されている会社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。

本文中では、TM、® マークは明記しておりません。本カタログの無断転載・複製を禁じます。